

★委員提案 ☆事務局案追加

課題
<p>(1) 中小企業の経営革新（イノベーション）への支援強化 (2) 廃業防止のための円滑な事業承継に向けた取組への支援強化 (3) 多様な世代の創業実現へ支援強化 (4) 三木金物ブランド製品の海外展開への支援強化 (5) 人手不足の状況で、生産性を向上させる人材育成及び先端設備導入への支援強化</p> <p>上記は事務局案</p> <p>★「課題（案）」については、(1)から(5)のいずれも、重要課題として妥当である。 ただし、製造業の1人あたり付加価値額が低下傾向にあることなどを踏まえると、その具体的な原因を探ることが必要であるとともに、課題(2),(3),(5)への取り組みにおいては、個々の企業活動について、また産業全体について、結果として、より効率的な経営資源の配置が実現することが重要である。 また、より長期的かつ重要な課題は、住む人、働く人、訪れる人の増加であることを確認しておきたい。</p> <p>★生産性向上に向けた経営革新の支援 ★IT・IoT活用の支援 ★時代の変化への対応支援強化 ①商品力向上の支援強化（工業製品のグローバル対応／デザイン性強化／使用用途等拡充による提案型販売／販売形態の見直し等） ②発信力強化（グローバル展開を見据えた支援の強化） ③地域力強化（集約および地域リソースの活用）</p> <p>☆中小企業と大企業の連携 ★産学連携・異業種連携等の支援 ★従来型の金物卸売業の支援 ★人材不足対策（外国人人材の積極登用） ★セーフティネット ★商店街の活性化を含む魅力あるまちづくりの支援</p>

具体的な施策

(1) 経営革新支援

- ① 中小企業サポートセンター事業
- ② 中小企業経営革新設備投資促進事業

(2) 事業承継支援

- ① 中小企業サポートセンター事業

(3) 創業支援

- ① 創業支援事業計画に基づくセミナー・個別相談
- ② 中小企業サポートセンター事業
- ③ 起業支援事業補助金及び起業家支援利息補給金

(4) 海外展開支援

- ① みきかなもんプロジェクト

(5) 人材育成及び先端設備導入支援（生産性向上）

- ① 中小企業人材育成事業補助金
- ② 先端設備等導入計画の認定（償却資産に係る固定資産税の3年間ゼロ特例、ものづくり補助金（国）の優先採択）

上記は事務局案

★「具体的な施策（案）」の他には、市外の経済力との結びつきを強める・増やすための施策が求められるのではないかと。製造業においては、市内既存企業と市外企業・新規開業企業との提携や共同事業の支援・促進が考えられる。また、商業については、三木を訪れる人・立ち止まる人を増加させる（たとえば高速で通過するだけでなく寄り道させる）ような、あらたな試みを支援することもありうる。

さらに抽象的な提案であるが、「三木の製品のブランド化」だけでなく、「三木市という町のブランド戦略」も必要である。製造業にしる、商業にしる、三木市がチャレンジする場としての魅力を持つことが、多くの具体的施策の成功につながると思われる。

★時代の変化への対応支援

- ① 中小企業個別で取り組みにくい部分の競争力を上げる支援（勉強会、市場調査、工業デザイン事務所採用等）
- ② 発信力強化（SNS・展示会出展等の企業個別及び地域としての発信力強化）
- ③ 地域力強化（地域集約・地域リソースを主眼に置いた創業支援）

★経営革新への支援強化 ⇒生産性向上

経営力向上計画（国）の認定、☆経営革新計画（県）の承認、☆先端設備等導入計画（市）を促進し、特にICT投資を含む労働生産性向上に資する設備投資を積極的に強化する。→ ☆中小企業サポートセンターによる支援（既存）

★働き方改革・テレワークの進展を背景に、IT企業等のサテライトオフィスを誘致

★ものづくり×IT・IoT、農業×IT・IoTで産業を活性化させるため、中小企業とIT人材との交流・マッチング事業を行う

★地場産業としての中高生への三木金物職業体験制度の強化

★県内工業系学校との連携（工業系学科のある県内高校19校、高専2校、ものづくり大学校など）。

出張授業、工場・製造現場の見学会などを通してまずは学生に知ってもらう。

★工具中心の三木金物はいわゆるプロ向けのイメージ。機能性+デザイン・色に拘ることでおしゃれで手に取りたいと一般人が思えるような商品を作ることで、インバウンド含めた新たな顧客開拓につなげる（行政はコンテストを開催することで募集を募り、優秀なアイデアには助成金を出す仕組みを検討する）。
→ ☆三木金物ニューハードウェア賞（既存）
★農業や製造業での人材不足は深刻。外国人人材の積極受け入れを念頭に行政としても住環境含めた受入体制の検討
★市外の観光客、インバウンド向けに SNS による情報発信の工夫

目標値の設定

【全体目標】

☆事業所数（全産業）、従業者数（全産業）、出荷額・付加価値額（製造業）、商品販売額（卸売業・小売業） ※中小企業のみデータ無
★製造業の従業者数（増加率）及び、一人当たりの付加価値額（増加率） ※中小企業のみデータ無
★金属製品従業者一人当たりの付加価値額 ※中小企業のみデータ無
★三木金物製品輸出額
★金物卸売業従業者一人当たり商品販売額 ※他業種の卸売業に変わった場合は反映されない。
★商店数・営業店舗数 ☆実質空き店舗率
☆生産年齢人口、職業紹介成功率、有効求人倍率（ハローワーク西神 ※三木市データ無）、開業率・廃業率（ハローワーク西神 ※三木市データ無）
☆観光客動態調査（総入込客数・主要集客施設利用客数）

【個別目標】

★個別施策に関しては実施件数・助成額・開催回数・人数

その他

★金物等製造業においては、これまでの伝統を踏まえつつ、商品力・情報発信力を時代に合ったものにあげていく支援が必要。
そのために施策案(1)～(5)としても上げていただいているサポート事業の枠を広げて、企業間でリソースを共用できる環境づくりができないか。
商業においてはターゲットをどのように定めるか。起業・活性化を図るために地域集約/色分けを促進する政策により、地元の方を集める、圏外の方をあつめる等明確にして全体のレベルアップを図る。
★市内の生産額、付加価値を増加させるには、セーフティネット施策の充実により成長が見込めない産業（事業所）を護ると同時に、大学等研究機関、大企業との連携、異業種連携施策を推進して成長産業分野への参入や、新市場・グローバル市場の開拓を進める施策を進めるべき。
★企業の社会的責任の観点から、市内所在の大企業に中小企業との連携・協力を働き掛ける施策を検討する。
→ ☆三木市中小企業振興条例の第7条（大企業者の努力）では、「大企業者は、中小企業者及び経済団体等と連携し、地域経済の活性化・・・」
★企業の集約化による経営効率化、経営基盤の強化を支援することを挙げていたが、前回のアクションプランの結果を見ると総花的との印象を受ける。（件数は上がっているが尖った施策がないので、強い企業、成長力のある企業が生まれているのか疑問）
★異業種連携、地域内企業連携、産学連携を支援ができていない。三木市が強い金物以外に有力な産業を育成する観点から産学連携が重要と考えるが、中小企業が単独で動くのは難しいので、三木市が企画して特定大学と連携してプロジェクトを進めるべきである。
★地場産業の三木金物は、大工道具（B2B）が主体で広がり欠ける。金物製品の輸出は減少傾向にあるので、技術力の向上、マーケティングによるブランド力の

向上により輸出の維持が重要であるが、金物だけでは三木の中小企業の付加価値生産高の維持向上は難しい。

★ネット通販の普及や大手小売チェーンの拡大により、卸・小売業事業者数の減少が継続するのは不可避であることから、卸・小売業の振興を目標値（KPI）に設定する事には無理があるのではないか。

★起業支援事業については、施策の視座が不十分で、結果も小粒である。

★まちの賑わいの再生の観点から、産業と観光資源とを連携したツーリズムといった具体的な施策がない。

★商工業の振興や雇用の安定・人材育成など、ボトムアップ・セーフティネットとしての施策は積極的に行われているが、攻めの施策が不十分である。

★他の施策全体(創生計画や総合計画など)との整合性や相乗効果を考慮した中小企業政策であることが望ましい。

★対象と考えている中小企業は、何を指すのか明確になっていない。

中小企業の全体に対しての振興を対象としているのか。中小企業と言っても数人から業種によっては数百名まで従業員がいる会社も含まれる。規模の大小、業種の違いを考慮して、対象を明確にすべきです。中小企業全体なのか、または特定の部分にフォーカスするのかを明確にするべきです。

★規模の大小、業種の違いがあっても「事業承継」「後継者問題」等、問題点は同じケースもあります。